

演習Ⅱ：福祉用具の事故予防を

視点とした事例検討



淵上 敬史 氏

安全確認トレーニングで肩を慣らした後は、具体的な事例をもとにしたグループワークだ。受講者は、個別サービス計画書やケアプランに記載された情報をもとに利用者像を頭に描き、選定された福祉用具や生活動作のどこに注意

しなければならないかを話し合った。講師を務めたのは、淵上敬史氏（株式会社ウィズ福祉技術情報支援室課長、作業療法士）。「訪問介護員／福祉用具専門相談員がどういう視点を持っているか、『気づき』を得てください」と声をかけた。

淵上氏は、連携による情報交換の必要性を主張する。「福祉用具専門相談員は『誰が使うのか』を把握できているか、また、訪問介護員は『何の目的で選定されたのか』、『どう使うのか』を把握できているか。せっかく良い福祉用具があるにもかかわらず、うまく使われないのは残念なこと。各自、事業所に帰ったときにもう一度考えてみてください。」（淵上氏）



普段からのコミュニケーションで

すれ違いの解消を

発表の中で、訪問介護員が福祉用具専門相談員への要望を伝える場面も。特に印象的だったのは、「訪問介護員が在宅介助しているところを見に来てほしい」というもの。実際の現場を見ることで、訪問介護員から引き継がれる内容の受け取り方も変わってくるだろう。これに対し福祉用具専門相談員は、「訪問介護員がご利用者に最も近いので、時間を合わせて話を聞きたいと常々思っていた。邪魔になるのではないかと気兼ねしていた」と話した。普段現場で顔を合わせる機会が少ない分、思いがすれ違っていたようだ。連携の仕組みづくりは今後も課題である。



グループワークの様子。他の職種と意見を交わすことで、新たな発見も。



~~~~~

5会場すべて終了したが、事故予防の仕組みづくりや多職種連携の環境整備等、課題解決はこれからである。本会では今後も研修会等を開催しながら、これらの課題解決に積極的に取り組んでいきたい考えである。

### 受講者インタビュー

- ・ご利用者が福祉用具専門相談員に見せる顔と訪問介護員に見せる顔では、違いがあることを発見。福祉用具専門相談員の視点は参考になりました。（訪問介護員）
- ・訪問介護員さんに、使い方の説明がきちんと伝わっていなかったんだな、ということに気がつきました。（福祉用具専門相談員）
- ・訪問介護員が一番ご利用者の身近にいて福祉用具も使います。どう連携していくかが今後の課題です。（福祉用具専門相談員）



修了証の授与

<訪問介護員と福祉用具専門相談員の連携研修>

- ①神奈川会場／2011年11月14日（月）
- ②千葉会場／2011年11月25日（金）
- ③静岡会場／2011年12月20日（火）
- ④鹿児島会場／2012年1月21日（土）
- ⑤大阪会場／2012年1月24日（火）